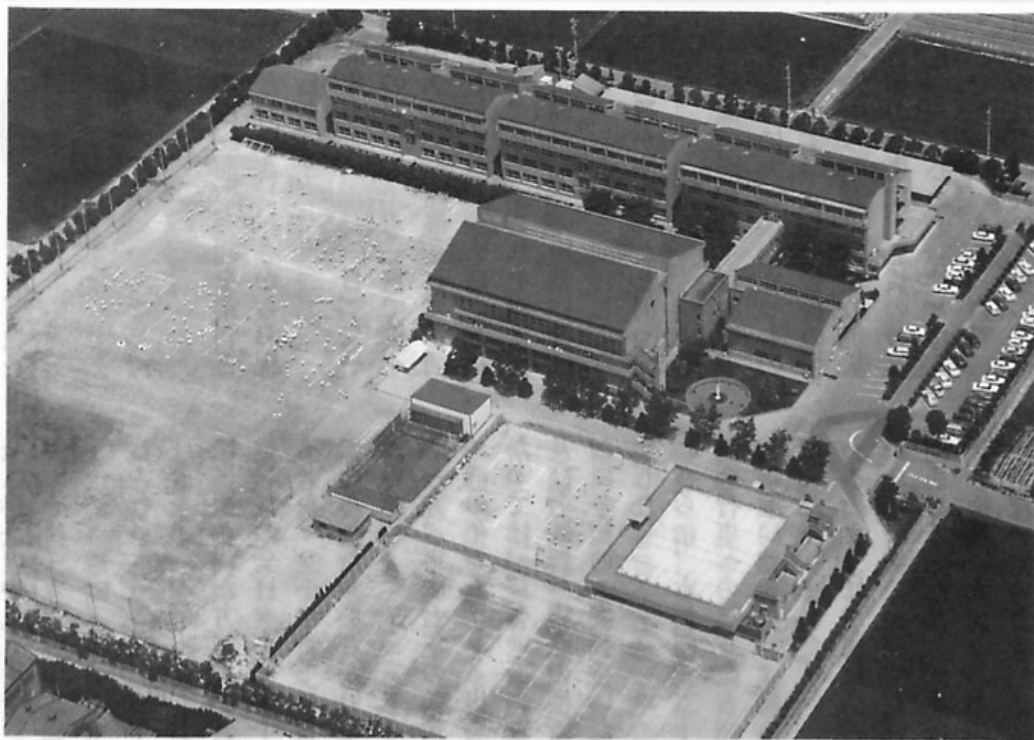




同窓会報

愛知県立
一宮興道高等学校
〒491
愛知県一宮市大和町
於保字十二1-1
TEL (0586) 46-0221
FAX (0586) 43-4457

日頃、同窓会員の皆様方には同窓会活動に格別な御理解と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。この同窓会も昭和六十一年に第一回入会式を行って以来、昨年二月に第十一回目の式を行うことができました。今春卒業する第十二回生を迎えると、同窓会は約五千人をかかえる組織となります。組織が大きくなれば、今まで以上の活動が行えるものです。皆様方の声を大切に、微力では御座いますが、皆様の代表として責務を果たさせて頂く所存でありますので、一層の御理解・御協力をよろしくお願い申し上げます。

今年で十二年目を迎える同窓会ですが、簡単にこれまでの足跡を振り返ってみます。

昭和六十一年八月、第一回総会を本校体育館で開催。第一回生のみの参加でしたが、百名を超える参加がありました。懐かしい恩師を囲んでの

談話に、時間が経つのを忘れたほどです。第三回総会で初めて三学年がそろい、いよいよ同窓会活動が本格的になりました。しかし、卒業生は増えても、総会への参加者が伸び悩む状況が見え始めました。会場が本校体育館であったこともその理由で、役員も「会場を」「内容を」と検討する時期に入りました。本校開校十周年に合わせ、「同窓会名簿」発行を決定。同窓生の数も三千人を超えました。

そして、平成七年度にはついに同窓会も十周年を迎え、「マリエール一宮」を会場に「十周年記念総会」を開催。多数の出席をいただき、盛大に行うことができました。

このような歴史を経てきた同窓会ですが、最後に今後の動きについて紹介します。まず、総会についてですが、十周年までは毎年開催していましたが、これを機に、三年に一度の開催に変更し、より充実した総会にしたいと思えます。次に会報についてですが、



同窓会報発刊にあたり

一宮興道高等学校同窓会長
高沢 秀 昭

卒業してしまうと母校の様子がつかめないものです。卒業生と母校を結ぶパイプとして、充実した会報を発行する予定です。発行年は総会と同じ年です。母校の近況、総会の案内等を掲載しますのでご期待ください。また、今号の中に「卒業生の活躍」があります。私たちの励みになるのは仲間の活躍です。次号からも掲載の予定です。情報をお待ちしております。役員まで、御連絡ください。

私は現在蒲郡に住んでいます。久しぶりに故郷である一宮に帰ってくるとなんだかほっとするのを感じます。同窓会も同じではないでしょうか。卒業生である皆様方、私どもがご指導頂いた恩師の方々の「心の安らぎの場」「憩いの場」となるように、役員一同協力して努力していきますので、会員の皆様の絶大な御協力を重ねてお願い申し上げます。発刊の挨拶とさせていただきます。



会報創刊のお祝い

校長

宮本 武司

この度、同窓会報を創刊されるとお聞きし、心からお祝い申し上げます。

昨年七月三十日(日)に一宮市のマリエール一宮で第十回記念総会を開催されて、同窓会としての基盤を確立されました。そしてこれを機に同窓会会則第九条の事業に掲げられている会報を創刊しようとの気運が生まれたと伺っています。

会報は、同窓会の目的を実現するのに大いに役立つものと思います。会員の皆様の情報や先生の動静、母校の現状報告等の記事は、会員の皆様一人一人の心を繋ぐ絆となることでしよう。また、会報に紹介された会員の皆様のご活躍ぶりは、在校生の意欲を大いに鼓舞するものと確信します。

卒業生の皆様には、さまざまな分野でご活躍されていますが、特に、平成七年に新聞などに紹介された方々は、京都の福祉機器のコンペで入賞された方、稲沢市の市議員

に当選された方、キックボクシングの全日本フェザー級タイトルマッチでチャンピオンになられた方などがいらっしやいます。

一方、平成七年の軟式テニス部のインターハイ出場に当たっては、校舎壁面の垂れ幕及び名鉄新一宮駅の横断幕などに多額のご寄付をいただきました。

さらに、本校開校二十周年記念行事への積立金も、平成七年度同窓会会計に組み込んでいただきました。

このように、同窓会の皆様からは、物心両面で在校生を励ましていただき、本校の教育の推進に大変なお力添えをいただいています。

同窓会設立以来十一年のご支援に感謝申し上げます。今後一層のご協力をお願い申し上げます。

最後に同窓会会員の皆様のお祈りしまして、会報創刊のお祝いの言葉とさせていただきます。

育

元校長

日比 紫朗

学校の正面玄関向かって右側に「育」と題した母子像が建っています。これは開校十周年に当たって、記念の品として造立されたものです。日展作家、三枝惣太郎先生が制作してくださいました。

「育」という文字の成り立ちは、この字を「土」と「月」に分けて考えるとよくわかります。「土」が子供の生まれ

今思い出すこと

前校長

山田 邦彦

今回同窓会報第一号が発刊されますことを知り、心からお祝い申し上げます。

一宮興道高は、素晴らしい人々との出会いがあり、色々な体験を積み重ねてきたこと、有終の美を飾れたこと、私には思い出の多い、終生忘れられない学校となりました。

赴任した次の年、創立十周年記念行事と式典を行うとい

るときの形をあらわしており、「月」は生まれ出ることの意味しているといえます。ですから「育」はもとより子供が生まれてくることを意味していたのですが、これが今では子供が「そだつ」ことをあらわす字になってきています。従って字の意義は、「そだつ」、「そだてる」ということになり、この像の題名は、「はぐくみ」と読むとよいことになります。

子供は本人の力と家庭・学校・地域社会の力に育まれて伸びます。そして学校では、

う名譽を与えられて、かなりのプレッシャーを感じました。しかし前任校長の日比先生が十分に準備をし、路線を引いて下さっていたお蔭で、困ることはありませんでした。実行委員会の役員や理事の方々、教職員や生徒の皆さん全員の協力を得て、行事はすべて立派に挙行できました。

式典終了後、参列者の方々からお褒めの言葉やら、称賛のお手紙をいただき、深く感動するとともに、学校の節目に居合わせた幸せをしみじみと味りました。

先生方の働きはもろろのころ、PTA・同窓会の働きかけの如何が教育効果を左右します。先輩の活動は、現役の生徒に大きな影響を及ぼすということがあります。

同窓会が発足して十年、この節目に当たって同窓会報が発行されることになり大変喜んでおります。

同窓会の皆さんが母校の発展を望み、後輩たちの成長を温かく見守ってやってくださる「育」の場としてこの紙面がいよいよ充実していくことを祈っております。

また、建物が文化会館風のモダンな造りであるとか、玄関にスロープがあり、車椅子で出入りできるなど最新の設備が施されているために、近く廃校となり、老人ホームに転用されるとの噂が実しやかに囁かれました。心配した大勢の人々から真偽を質され、本当に困惑しました。着実に伸びる興道高に対する悪質な嫌がらせと思いい、生徒募集に影響が出ないよう対策を尽くしました。何よりも実績がものをいい、知らぬ間に噂は沈静化したことが記憶に残っています。

恩師からのことば

本校建学の精神

元教頭

井上 洋一

私は本校開設当時の昭和五十八年四月より平成元年三月迄六年間を教頭としてお世話になりました。現在岩倉市に在住しております。ふる里は遠くにあります。ふる里の心ふる里である本校が益々発展している様子を見聞するにつけて、嬉しく又誇らしく、感慨に浸っています。

さて、初代校長森巖先生が掲げられました、「自からを厳しく律し、たくましく生き抜く力を養うこと」が建学の精神です。この教育方針のもと、師弟同行の掛け声のもと、先生・生徒ともども活力ある学校生活を過ごせたことは幸せであったと思っています。くしくも、本年九月十七日に中央教育審議会より答申がなされ、二十一世紀の教育の指針が示されましたが、本校の建学の精神と正に一致しております。「変化する社会に対応できるたくましく生き抜く力」を強調しているからです。今後とも本校の発展を心から祈念しております。

校訓「活力」を大切に

愛知県立尾北高等学校

校長 水田 浩

愛知県立一宮興道高等学校が昭和五十八年四月に開校して十四年目を迎えました。皆様のご努力により、立派な学校に成長したことを心から嬉しく思っています。

本校の基礎は、森巖初代校長が創造され、校訓「活力」を掲げ、職員には「和而不同」（人と仲良くするが、道理にそむいてまで人にへつらい同調するような交わりはしない）を掲げて学校運営にあたられました。岡本白涛先生の書になるこの色紙が、今も会議室に掲げてあります。校訓の活力は、本当はバイタリテイにしたいと思っておられましたが、日本の高校であるので活力としたと伺っております。校門から入って、真正面に校歌碑、その奥に森校長直筆による校訓活力の二文字が力強く書かれた立派な校

調碑（ります）。

卒業生の諸君は、Vitalityを生涯の座右の銘として、生命力のある、活力のあるそして、いつも心に夢を持ち、どっしりとした人生を送られたい。

興道高校の思い出

元教頭

勝野 玲子

私は、興道高校へ創立十周年の年に赴任致しました。長い教員生活の中で、多くの周年行事に出会って来ましたが、これほど見事な行事には、容易にお目に掛かれませんでした。

主役の、生徒諸君の毅然たる態度に、ご参列頂いた皆さんより、賞賛のお言葉を頂きました。その時の嬉しさ・誇らしさはいま思い出しても感無量です。また協役を勤めて頂いた皆さんの応援と、ご援助も暖かいものでした。胸を開いて、

とんと引き受け



てくださった、PTAの皆さん、舞台なら黒子に徹した、教職員の皆さん、どれをとっても「有りがたい」そのような十周年でした。

あれから、もう五年の月日が流れましたが私の心の中では、昨日のことのように思い出されます。

いま、あの時のご来賓の言葉を、そのまま贈りたいと思います。「興道高校は永遠です。すばらしい生徒諸君が居る限り」

皆さん、こんにちは

愛知県立平和高等学校

教頭 箕浦 勇

卒業生の皆さん、お変わりありませんか。小生は現在、平和高校に勤務し、元気でおります。

小生が、興道高校を去ってから四年になりますが、この間も、在校生の皆さんが、部活動で活躍したり、進学実績をあげていくれることを見聞きするたびにうれしく思います。これも卒業生の皆さんが、「興道：道を興す」の校名どおり頑張ってくれたおかげであると、創成期に在職し

た者のひとりとして、感謝に堪えません。このうえ、願うことは、卒業生の皆さんが健康で、それぞれの分野でますます活躍されることです。幸いにも小生は現在多くの興道関係者に囲まれて、仕事をしています。例えば養護の林治代先生、森洋子先生(初代校長、森巖先生のご子息のお嫁さんで一時期興道高校にもお勤めでした)、一回生の藤本深雪さん、四回生の佐藤康之君です。では、これからもお元気で多幸であるよう祈ります。

創設期の思い出

愛知県立蟹江高等学校

教頭 佐藤 忍

私が一宮興道高校にお世話になったのは、開校の年です。昭和五十八年四月から平成七年三月まで十二年間です。この間の出来事の中で最も印象に残っているのは創設期の学校づくりであります。

当時、初代校長の森巖先生が私たちに何度も言われた言葉が、今でも私の脳裏に焼きついております。「一宮市内では五番目の普通科校だが、

でもな世間をアツと言わせないな。」この言葉に大きな意味が込められていることは、よくわかっていました。

その後、全職員が初代校長の志を受け継ぎ、興道の土台作りに精一杯励んだものであります。そして、新しく校長を迎えるごとに、飛躍し続け、世間からアツと言ってもらえる学校になってきたと自負しています。

興道高校で常に心がけていたことは「情」のある教育でした。厳しいしつけ教育、思いやりのある教育こそが教育の原点であり、生徒と先生との「心のきずな」こそ教育にとつては最大のものだと信じています。

同気相求む

愛知県教育委員会

安田 英和

同窓会会報の発行おめでとうございます。一宮興道高校の同窓会も、第十二回の卒業生を迎えて五千名を超える会となり、会報の発行を契機に同窓会活動がより多彩になるものと期待しています。

さて、開設当の卒業生諸

君は、仕事においても人生の上でも、今後の生き方を決定するよう大切な時期にさしかかっているのではないかと思います。

私は、この時期になくはならないのは、気心の知れた、しかし、ここぞという時には菌に衣着せぬ助言をしてくれる友人だと思っています。

竜は巻き起こる雲を呼んでその勢いを増し、虎は疾風を迎えて、いよいよその氣を加えると言いますが、同気相求むるに足る友人が、この同窓会にもたくさんいます。人と人とのつながりは、何よりも大きな財産です。同窓会がうまく間を取り持つて、人の輪を広げてくれることを願ってやみません。

祝友松田清久先生を偲んで

愛知県立尾北高等学校

倉知 三雄

同窓会会報の原稿依頼をいただき、久しぶりに興道高校時代を振り返ってみました。



喜怒哀楽の激しい自分ですから、数え切れないくらい生徒と先生方との思い出が脳裏に蘇ってまいりました。

創立以来

共に興道高校によりき伝統を築こうと励まし合い頑張ってきた祝友の松田清久先生が平成五年にご他界されたことが心に一番残っています。

先生は保健部主任として、生徒の環境整備、すなわち気持ちよく勉強してもらいたいの一念で陰ひなたとなり、もくもくと仕事をなされていました。

表舞台に立つ人間の裏には必ずそれを陰で目立たず支える人間がいるものです。もし表舞台に立つようなことがあれば、その裏で自分を支えていてくれる人への暖かい配慮と感謝の気持ちをお忘れのことのない人に生徒諸君には育て欲しいと思います。貴校と貴校同窓会の益々のご発展を祈念いたします。

思い出

愛知県立西高等学校

森 直之

ユニークなデザイン建物、透明ガラスの中の迷のスペース・コモンホールなど、魅力の多い高校が誕生し、若くてエネルギーのある教員集団の中で働くことができた喜びは、今も忘れることができません。武道場にビニールシートを敷いて最初の入学式を迎えました。生徒も意欲的で生き生きとしていました。私は、サッカー部の顧問として一年生だけで総体予選に参加しました。体育のシャツに背番号を縫いつけての出場でした。何点も取られましたが、諦めずに攻めて、初戦としては収穫の多いものとなりました。行事は全てのもが初めてののですが、職員生徒が準備から反省まで真剣に取り組むことができました。グラウンドの石拾いは一回生の宿命ですが、なつかしい思い出です。最後に、開校から私たちが引っ張っていた色黒くて明るい松田先生が他界されました。この紙面をお借りし、御冥福をお祈りします。

同窓生の活躍

いつも

キックボクシングとともに

佐藤 孝也



母校を卒業してから始めたキックボクシング。これが今後の人生を変えるなんて思いませんでした。アマチュアの試合で好成績を残し、大学二年の時にプロとしてデビューしました。それから連勝を続け、九連勝でむかえた全日本フェザー級タイトルマッチ。結果は2RKO勝ちで見事チャンピオンに。でもここからが天国と地獄のくり返しでした。タイ人選手との試合でKO負けしたり、初防衛でも負けたり。でもその後タイまで行って試合して勝った

就職しましたが、自分にとってかけがえのないものを手に入れたと思います。今でもキックは自分を救ってくれています。次は、人生という大きなリングでチャンピオンを目指します。



り。ホントに色んな事がありました。足のケガで死にそうになったり、大切な人を失なったり。キックを始めてから六年余、今まで一番嬉しい事も、一番悲しい事もキックと共にありました。今は現役を引退し他の人より二年遅れて

大志をもって

チャレンジを

野々部 尚昭



卒業生、在校生の皆さん、こんにちは。稲沢市議会議員の野々部尚昭です。昨年九月の選挙で当選し全国最年少市議（二十五歳）になり、若者が政治に参加できる市政を目指しています。現在、大学院で国際政治と比較地方自治を研究しながら、市政に新しい風を吹きこんでいます。目標は二十一世紀に活躍する若者が『夢や希望をもてる政治』の実現です。特に在校生の皆さん、大志をもって何事にもチャレンジして下さい。私も応援していますよ。



コンパで入賞して

熊澤 創



私は大学で、プロダクトデザインを学び、現在は家電メーカーでデザインの仕事をしています。大学で学んだデザインとは、造形的な美しさだけでなく機能的に使い易いものを作ることでした。特に福祉機器のデザインに興味を持ち、四年の時に制作した身障者用のシャベルが、京都市主催のデザインコンペで市長賞に選ばれ、自分でも初めての受賞で驚きました。今後仕事の上でも、弱者の立場に立ったものづくりができればと思っています。

同窓会だより

一 同窓会十周年記念式典
及び総会の開催

平成七年七月三十日
(於)マリエール一宮
現旧職員、一般会員合
わせて約二〇〇名が参
加して盛大に開催され
ました。同時に永年勤
続の先生方にも記念品
が贈られました。

平成七年七月三十日
(於)マリエール一宮
現旧職員、一般会員合
わせて約二〇〇名が参
加して盛大に開催され
ました。同時に永年勤
続の先生方にも記念品
が贈られました。

二 同窓会理事会の開催

平成七年六月十八日
(於)愛知県立一宮興道
高等学校
同窓会総会の実施方法
について話し合いが行
われました。

三 平成七年度全国高校総体
ソフトテニス選手権大会
及び東海大会出場援助

四 同窓会入会式の開催

平成八年二月二十九日
第十一回生三三二名が
同窓会に入会、会員総
数は四九五三人にな
りました。

五 同窓会報の創刊

平成九年三月一日

十周年記念式典について

愛知県立一宮興道高等学校
同窓会十周年記念式典盛大
に開催さる

平成七年度をもって本同窓
会も十年目を迎えることがで
き、去る平成七年七月三〇日
(日)一宮市のマリエールに
於いて盛大に記念式典を挙行
することができました。恩師
の先生方、十年間の同窓生、
合わせて約二〇〇名に参加し
ていただきました。同窓会長
である高沢の挨拶の後、宮本
現校長先生、日比元校長先生
からお言葉をいただき、現在
の母校の状況や懐かしい思い
出について話していただきま
した。それに続いて、永年勤

続者表彰を行い、創立時から
興道高校の教育活動に長年ご
尽力された一〇名の先生方に
賞状と記念品が贈られまし
た。その後、会は懇親会へと
進み恩師の先生方、先輩後輩、
クラスメート等入り交じって
懐かしい話に花が咲いていた
ようでした。



永年勤続表彰者

井手 政己	森崎 忠彦
溝口 晃之	伊神 正司
横井 裕二	住友 利充
鈴村 和子	梶田 幸子
森 雅道	林 治代
加藤 一女	坂牧 伊吉
鷺津 信	

愛知県立一宮興道高等学校同窓会会則の
変更についてのお知らせ○総会の開催について
(変更前)

同窓会総会は毎年7月の最終日曜日に開催する。

(変更後)

同窓会総会は原則として3年ごとに開催する。ただし、
周年行事等の関係で年度を替えて実施する場合もある。

次回同窓会総会開催予定
1998年(平成10年)

○愛知県立一宮興道高等学校同窓会報創刊について

同窓会も12年目を迎え、同窓生も5200名を越えるま
でになりました。そこで同窓会活動の様子や母校の現況
報告、同窓生の情報交換の場となればと同窓会報を発
行することになりました。この同窓会報は原則として
総会を開催する年の6月1日に発行する予定です。

同窓会決算報告

平成7年度決算

1 収入	9,611,486円	
2 支出	1,418,806円	
3 次年度繰越金	8,192,680円	
収入の内訳		備考欄
1) 会費	1,870,000	1人 5,000円 (374人)
2) 繰越金(前年度)	7,658,550	
3) 利息等	82,936	
(合計)	9,611,486	
支出の内訳		備考欄
1) 総会費	951,451	総会案内ハガキ印刷及発 信料含む
2) 通信費	33,995	
3) 記念品費	130,000	3) 記念品費内訳 転職者(10名分)
4) 会議費など	29,200	
5) 事務費	74,160	5) 同窓会名簿入力 手数料
6) 慶弔費	50,000	6) 中森教頭、坂元先生 への供花・香典
7) 教育振興基金	150,000	7) 全国大会、東海大会 出場への援助
(合計)	1,418,806	

母校だより

環境教育研究
実践校の委嘱

愛知県教育委員会より環境教育研究実践校として平成七・八年度の二年間の研究委嘱を受けました。研究内容は、各教科でより効果的な環境教育をすすめる実践研究を行なっております。昨年の夏季休業中には、その一環として愛知県環境部大気保全課主催の「樹木の大气浄化能力度チェック」に本校生徒も参加し、校内の樹木の蒸散速度・光合成の測定などを調査し、報告しました。その成果は、環境庁大気保全局発行の「実施結果報告書」にも掲載されました。環境をテーマとした校内書道展を開催し、生徒・保護者の好評を博しました。今年度も昨年の実績をもとに、各教科で研究を継続して成果をまとめていきます。



卒業生の進路状況 (平成8年度)

() は浪人内数

〈国立大学〉		琉球大	1	富山県立大短	1	岐阜教育大	13	近畿大	9(1)
弘前大	1			福井県立看護短	1	岐阜経済大	12	同志社大	3
山形大	2	〈公立大学〉		石川県農業短	1	岐阜女子大	6	立命館大	7(1)
茨城大	1	都留文科大	3			金城学院大	11	日本文理大	5
宇都宮大	1	高崎経済大	2	〈私立大学〉		静岡理工科大	11	〈私立短大〉	
東京商船大	1(1)	東京都立科技大	1(1)	青山学院大	1	椋山女学園大	20	愛知淑徳短	21
富山大	2	福井県立大	1	慶応義塾大	1	大同工大	13(3)	愛知女子短	8
金沢大	1	愛知県立大	3	駒沢大	5(1)	中京大	36	愛知大短	8(1)
福井大	5	愛知県立看護大	1	創価大	6	中京女子大	5	岐阜医療技術短	3
山梨大	4	愛知県立芸大	1	東海大	10(1)	中部大	47(3)	金城学院短	8
信州大	2	名古屋市立大	4	東京理科大	1	東海学園大	5	椋山女学園短	12
静岡大	4(1)	滋賀県立大	1	東京農大	4	名古屋外語大	6	東海学園女子短	29
岐阜大	17	山口女子大	1	法政大	2(1)	名古屋学院大	44	東海女子短	8
愛知教育大	15	高知女子大	1	明治大	5(2)	名古屋経済大	15(1)	名古屋短	5
名古屋大	7(1)	国公立合計 112(5)		早稲田大	2	名古屋女子大	7(1)	名古屋女子大短	8(1)
名古屋工業大	8	〈国公立短大〉		愛知大	78(1)	南山大	34	名古屋文理短	10(1)
三重大	16	名古屋市大看護	1	愛知学院大	128(3)	保健衛生大	4	南山短	6
滋賀大	2	岐阜大医療技短	3	愛知工業大	63(1)	名城大	77(4)	藤田学園衛生短	3
大阪教育大	1(1)	岐阜市立女子短	13	愛知淑徳大	33(1)	四日市大	5(1)		
神戸商船大	1	三重短	2	朝日大	11(4)	関西大	1		
奈良教育大	1			金沢工大	11	関西学院大	1		

部活動の記録

平成七年度結果

☆囲碁、将棋部

全国高校選手権愛知県大会
出場 二回戦敗退

☆女子ソフトテニス部

総体県大会 ベスト16
新人戦県大会出場

☆男子ソフトテニス部

総体県大会 団体ベスト16
個人ベスト8
東海大会、全国大会出場
林、足立組
新人戦県大会出場

☆男子バドミントン部

総体県大会出場
シングルス、ダブルス
新人戦県大会出場
シングルス、ダブルス

☆ソフトボール部

総体県大会出場 ベスト8
新人戦県大会 ベスト16

☆女子ハンドボール部

国体予選県大会出場
新人戦県大会出場

☆剣道部

総体県大会出場 個人
新人戦県大会出場 個人

☆弓道部

総体県大会出場

☆陸上競技部

総体県大会出場
男子100m 男子200m
東海大会出場
竹中章浩
男子100m 男子200m

☆水泳部

総体県大会出場
新人戦県大会出場

☆書道部

第19回全国高等学校総合文化祭に出品
稲村 理恵(文化連盟賞)



教諭

教諭	中島 美幸	安田 英和	村上 君代
"	松岡 利幸	伊藤 信行	川口 昌裕
"	若山 正芳	今野 浩樹	酒井 規史
"	鈴木 正信(保健体育)	片桐恵理子	野口 武司
"	川島美江子	今西 里香	藤村 徹
"	坂元 紀昭	旭 澄江	箕浦 勇
"	内山田正文	井村 誠	今井 重廣
"	下村 直樹	朝夷名敦子	長谷川照二
"	鈴木 和子(音楽)	黒川 利之	北山 ゆり
"	森 雅道(英語)	伊藤 雅彦	三浦 治夫
"	篠田 清子	岡田 定	高宮 浩嘉
"	梅村 伸生	河村 真志	高丸 満夫
"	梶田 幸子	宮田 正夫	市村 薫
"	木村 斉	尾関 昌孝	山内 俊幸
"	金子 香美	熊谷 朱実	志知 芳朗
"	伊藤 勝俊	細川 正徳	山田 邦彦
"	今枝 淳	川口 光正	勝野 玲子
"	渡邊 真理	安達 和貴	水田 浩
"	安井 正史	柴垣 干	小酒井順子
"	野村 好子(家庭)	松田 清久	佐藤 忍
養護教諭	山田 直美	森 直之	田中 道徳
実習助手	上條ゆかり	高柳 功	榮留 総実
主査	日下 久志	伊藤 充良	溝口 晃之
主任	長屋まち子	山内 俊幸	森 義昌
主事	中川美智子	倉知 三雄	横井 裕二
"	野田のり子	伊藤 悟由	藤澤多計志
用務	坂牧 伊吉	伊藤 正樹	早川 誠記
	鷺津 信	野倉 正人	高丸やよい
		村上 敏之	加藤 隆子
		平井 文治	林 治代
		松浦 勝正	加藤 一子
		宮本あけみ	森 洋子
		伊藤 由美	高木 康碩
		高田 章久	早川 和夫
		永田 敬子	中井 男

河合 治明	(犬山)
白木モト子	(木曽川)
内田 一枝	(稲沢東)
浅野 龍夫	(平和)
大塚 敏明	(一宮工業)
山本 雄二	(一宮西)
大塚恵理子	(津島東)
木全 英一	(佐織工業)
高橋みさき	(退職)
樋口 順子	(県教委)

恩師の先生方、現興道高の先生方、そして多くの同窓生の皆様方の御協力で同窓会報を発行することができました。同窓会役員心からお礼を申し上げます。今後とも同窓生と母校を結ぶかけ橋として価値のあるものになりたいと思います。よろしくお願いいたします。また、御意見等をお待ちしております。

「最近、同窓会の名で住所等について調査している機関があります、本校の同窓会とは無関係ですので注意してください。」